

1. ボランティア活動

地域に根ざし継続するボランティアを

岩手大学三陸復興推進機構 生活支援部門ボランティア班
班長 名古屋 恒彦（教育学部 教授）

ここでは、ボランティア班が初期において実施した活動及び現在までの活動の主なものを紹介し、今後を展望します。

I 緊急沿岸支援期間（2011年4月～5月）における主な活動

1 大船渡市支援

4月6日、7日、14日の三日間、体育系サークルを中心にのべ138人の学生が、大船渡市における復興支援活動にあたりました。体育系サークルを中心としたのは、短期集中的でかつ大規模の支援であったため、すでにチームワークが構築されている体育系サークルの結束力・行動力に期待してのことでした。呼びかけに応じて参加した学生たちは、小学校や個人宅の瓦礫撤去、ヘドロ除去作業、避難所における炊き出し、物資整理などの活動に精力的に取り組みました。現地避難所のスタッフの方々から1日ばかりと見込んでいた業務を1時間余りで終えるなど、その活躍は期待以上のものでした。

2 公認学生団体等の活動

ボランティア班の組織とほぼ並行して、学生たちの中から震災ボランティア活動の胎動が始まっていました。「天気輪の柱」は、その嚆矢で、学生支援課との連携の下、3月中より盛岡市内で応援横断幕作りなどを行っていましたが、4月には宮古市で開始されたボランティア活動の核として活動を開始しました。

宮古市では、盛岡YMCA宮古ボランティアセンター（以下、「YMCA宮古VC」）と連携し、4月13日、14日、4月18日～5月6日の期間、宮古市内の浸水家屋片付け、ヘドロ除去などを行いました。この期間ののべ参加学生数は181人でしたが、「天気輪の柱」メンバーは連日活動に参加し、参加学生のリーダーとして活躍しました。

4月30日には、「天気輪の柱」とYMCA宮古VCの連携の下、宮古市内で避難所の方々と花見を実施しました。上記181人とは別に、学生55人、市民約70人が参加しました。震災後間もない中、このようなイベントを行うことに不安もありましたが、参加してくださった宮古市の方々の笑顔が印象に残りました。後のことになりますが、12月下旬の活動の際、地域の方から「花見はよかった。元気になれた」と声をかけていただいたことはうれしいことでした。

「もりもり☆岩手」は、農学部学生を中心に組織された学生団体で、陸前高田市における復興支援活動にあたりました。4月7日から5月5日までの期間に、のべ156人の学生が参加し、陸前高田災害ボランティアセンター（以下、「陸前高田VC」）のボランティア受付及びマッチング業務などに取り組みしました。陸前高田VCでの業務は高い専門性が要求されますが、学生たちは短期間でそのスキルを身に付け、地域の方々から高い評価を得るに至りました。

3 教職員による活動

4月29日から5月31日まで、宮古市金浜老人福祉センター内避難所支援を岩手山青少年交流の家職員と一週間交替で毎日実施しました。

II 現在の主な活動

1 「天気輪の柱」による活動

「天気輪の柱」は現在まで、宮古市を拠点に週土曜日を基本としてYMCA宮古VCでの活動を継続しています。当初の主たる活動であった瓦礫撤去等はほぼ終了し、現在は仮設住宅等でのイベント支援を中心に活動しています。餅つきやたこ焼きなどをしながら、地域の方々とふれあい、語り合いながら、地域が元気になっていく営みを支援しています。一方でまだ、津波被害を受けた家屋の片付け等が活動として入ってくることがあります。現在のボランティア活動の多様性は、今回の震災の被害の深刻さを考えさせられます。

2011年12月には、いわて高等教育コンソーシアムのボランティアも受け入れ、初めて盛岡大学、富士大学の学生と共に活動することができました。今後も機会があれば、他大学の学生参加を受け入れていく方針です。また、宮古市での活動は教職員の参加も受け入れています。

2 「もりもり☆岩手」による活動

「もりもり☆岩手」も、週末を中心に陸前高田VCでの活動を継続しています。「もりもり☆岩手」の活動は、陸前高田VCの閉鎖をもって一区切りとなる性格を有していますが、陸前高田市の被害はあまりに甚大であり、「もりもり☆岩手」の力はまだまだ求められている現状です。専門性の高い業務であることから、年度の交代に向けて新メンバーへの引継ぎ等が課題となっています。

また、新たな活動として、2011年11月より陸前高田市において子どもたちへの学習支援等を行う「みちくさルーム」の運営にもあたっています。この活動も、今後継続的に行われていく予定です。

III 今後に向けて

今後のボランティア班の活動は、上記の宮古市、陸前高田市を中心とした活動を継続していくことが重要な課題です。各地域のニーズは、時間の経過と共に変化していきますが、ニーズ自体がなくなることはありません。それらのニーズを的確に把握し、活動を継続していくことになります。

また、現在新たに野田村での復興支援活動の可能性を模索し、班員による現地ボランティアセンター等との話し合いが行われています。

さらには、岩手大学スポーツユニオン、教育支援部門学習支援班などとの連携の充実も今後の方針に盛り込んでいます。

地元大学として「細く長く」にこだわり、今後も活動を展開していきたいと考えています。

2. ボランティア活動状況

震災復興に関する岩手大学の主なボランティア活動状況

平成23年3月～平成24年3月

●学生ボランティア

	内 容	活動場所	期 間	従事者数	担当教職員・部署名	備 考
1	被災家屋等の清掃、支援物資の仕分け、仕出しおにぎり作り等	大船渡市	4月6日、7日、14日	学生 延べ138名 教員 4名	名古屋恒彦(教育学部) 栗林 徹(教育学部) 鎌田安久(教育学部) 藁谷 収(教育学部)	大船渡小学校、大船渡中学校内避難所及び同校給食センターで活動
2	陸前高田災害ボランティアセンター運営支援、みちくさルーム(子どもを対象とした遊び場の提供)の運営支援等	陸前高田市	4月7日～活動中	学生 延べ330名 教員 延べ7名	松木佐和子(農学部)他 「もりもり☆岩手」 (学生ボランティア団体)	
3	「いわてっこ応援!学生ボランティアバス」と「子ども遊びキャラバン隊」への参加	釜石市	4月11日	学生 3名 教員 1名	堀 久美 (男女共同参画推進室)	「いわてっこ応援!学生ボランティアバス」実行委員会 企画
4	炊き出しの支援	陸前高田市	4月10日、13日	学生 延べ11名 教員 1名	松浦哲也(工学部)	岩手県少林寺拳法連盟からの要請
5	宮古市内の個人宅、店舗等への戸別訪問によるニーズ調査、屋内片付け支援等	宮古市	4月13日～活動中	学生 延べ565名 教職員 延べ70名	名古屋恒彦(教育学部)他 「天気輪の柱」 (学生ボランティア団体)	活動拠点: 盛岡YMCA 宮古 ボランティアセンター
6	山田高校内避難所他での炊き出しの手伝い	山田町	4月17日	学生 7名	—	インターアルベン 栗石スクールからの要請
7	県立総合教育センターでの支援物資(学用品等)の仕分け	花巻市	4月20日～22日	学生 延べ4名	—	岩手県教育委員会からの要請
8	宮古市内の幼稚園訪問、園児との交流	宮古市	4月23日	学生 6名(留学生) 教員 1名	岡崎正道 (国際交流センター)	
9	被災地の妊婦や乳幼児の母親を対象とした「ほかほかママサロン」の企画・準備・運営サポート	八幡平市	4月28日～5月1日	学生 延べ31名 教職員 3名	堀 久美 (男女共同参画推進室)	「ほかほかプロジェクト」実行委員会((社)日本助産師会など)企画
10	「DREAM21夢の課外授業・希望プロジェクト」の運営協力	大船渡市	5月31日	学生 5名 教職員 5名	地域連携推進センター	二十一世紀倶楽部・夢の課外授業実行委員会主催、文部科学省生涯学習政策局協力 EXILEのメンバー2人が大船渡市の小学校を訪問し、児童と交流。
11	炊き出しの支援	大槌町	6月10日	学生 6名(留学生) 教員 1名	岡崎正道 (国際交流センター)	
12	図書の整理作業	大船渡市	6月13日、22日	学生 延べ20名 教員 1名	遠藤孝夫(教育学部)	岩手県教育委員会からの要請
13	体育の授業補助(陸上指導、体力づくり)	住田町	7月11日、27日	学生 延べ6名	—	岩手県教育委員会からの要請
14	ママハウスでのボランティア	釜石市	11月5日	学生 3名	男女共同参画推進室	ママハウスからの要請
15	全国生涯学習ネットワークフォーラムのパネリスト、運営補助	東京都 山田町	11月5日、6日	学生 11名 教職員 7名	名古屋恒彦(教育学部) 地域連携推進センター	
16	「理科授業の化学実験」学習支援活動(岩手県立高田高等学校)	大船渡市	11月18日	学生 7名 教員 2名	平原英俊(工学部) 會澤純雄(工学部)	岩手県立高田高等学校からの要請
17	学習支援活動(コラボ・スクール「大槌臨学舎」)	大槌町	12月25日～平成24年2月12日	学生 延べ29名 教員 1名	教育支援部門 新妻二男(教育学部)	主催:NPO法人カタリバ 後援:岩手大学、大槌町教育委員会ほか
18	学習支援活動(高校受験対策講座 タダゼミ)	釜石市	12月25日～平成24年3月4日	学生 延べ29名 教員 1名	教育支援部門 新妻二男(教育学部)	主催:NPO法人キッズドア
19	学習支援活動(宮古市立田老第一中学校)	宮古市	平成24年1月4日～6日	学生 延べ39名 教員 4名	山崎友子(教育学部)他	宮古市立田老第一中学校からの要請
20	宮古市内の幼稚園訪問、園児と交流	宮古市	平成24年2月14日	学生 8名(留学生) 教員 1名	岡崎正道 (国際交流センター)	
21	日本科学未来館・日本化学会主催 さわって遊べる展覧会「きみたちの魔法科学新発見」の共催・運営支援	大槌町	平成24年3月18日～20日	理事・副学長 1名 教職員 延べ44名 学生等 延べ18名	小川 智(理事・副学長) 成田榮一(工学部)他 工学系技術室	3日間で619名が来場

●教職員ボランティア

	内 容	活動場所	期 間	従事者数	担当教職員・部署名	備 考
22	宮古市災害ボランティア(避難所の運営支援、側溝の泥上げ作業等)	宮古市	4月29日～7月30日	教職員 延べ235名	名古屋恒彦(教育学部)他	活動拠点: 宮古市社会福祉協議会 (宮古市ボランティアセンター)
23	文部科学省職員教育行政等実務研修の受け入れ(災害ボランティア活動を実施)	宮古市など	8月22日～10月11日	文部科学省職員 7名 学生 延べ21名 職員 延べ33名	—	
24	釜石市災害ボランティア(瓦礫撤去等)	釜石市	9月17日～10月29日	職員 延べ30名	—	NPO法人hands主催

※活動場所について、都道府県名のない市町村は、すべて岩手県内の市町村。

※期間について、年表記のないものは、すべて平成23年。

※担当教職員名について、所属・役職はいずれも当時のもの。

学生ボランティア活動の様子



大船渡市:平成23年4月6日・7日(参加者全員)



側溝の汚泥除去作業(宮古市)



大船渡中学校での炊き出し作業・支給品の仕分け作業(4月6日)



大船渡市内の瓦礫撤去作業(4月6日)



宮古小学校に避難する皆さんをお花見に招待。
岩手大学管弦楽団、民俗芸能サークル「ばっけ」などが
日頃の練習の成果を披露。

サッカー部、陸上部、ラグビー部、バスケットボール部の学生が中心となり4月6・7日の2日間で述べ100名の学生が参加。

ボランティアに参加した学生の中には被災地である沿岸出身の学生も多数いました。